水面を編む

- 川の上を歩き、流れに身をゆだねるための建築 -

人はずっと、川を護岸の上から「眺める」ことしかできなかった。
もしも水の上に直接踏み出し、流れの音に包まれ、水面と同じ目線で寝転がれたなら。
ただ「水とひとつになって過ごす」ための、新しい親水空間の提案。

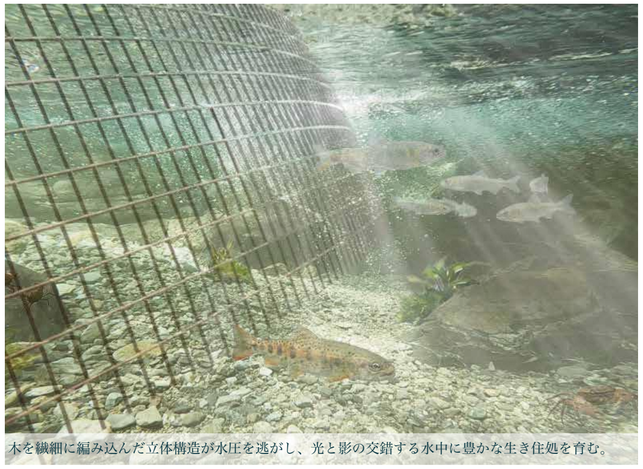




波打つ木格子が水上と水中をゆるやかにつなぎ、世代を超えて楽しめる新しい水辺風景を生む。



水面と同じ目線で人が佇み水中では魚が寄り添う、人と水辺が一体となる新たな関係を築く。



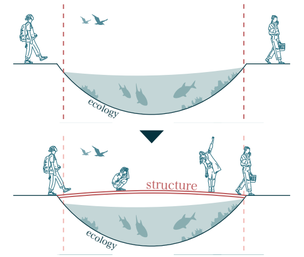
木を繊細に編み込んだ立体構造が水圧を逃がし、光と影の交錯する水中に豊かな生き住処を育む。

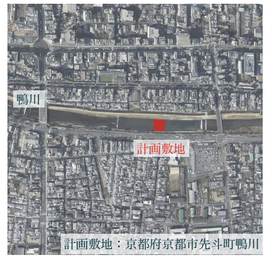
01 足元から溶け合う、人と川の新しい関係性



「川の上を歩いてみたい、水とひとつになって過ごしたい。」
本提案は、このどこまでもシンプルで素直な欲求から始まっている。私たちは日常の中で、川をいつも護岸の上から「眺める」ことしかできない。遠くに見える水面、届かないせせらぎの音。
もしも、その川の上に直接足を踏み出すことができたなら。
足元を流れる水の冷たさを感じ、流れの音に包まれ、水面と同じ目線で寝転がる。川を観察するのではなく、自らが川の風景の一部になって過ごす。人と水とのあいだにある境界線を溶かし、ただ「水とひとつになる体験」を生み出すための場所である。

02 水と身体をシームレスに接続する

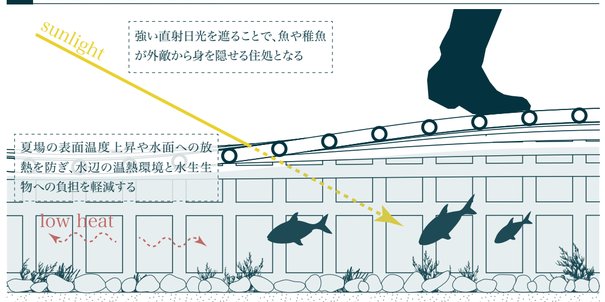




計画敷地：京都府京都市先斗町鴨川

護岸の上から「鑑賞する」対象であった川に対し、本提案は水面と身体をシームレスにつなぐ新たな水上の居場所を創出するものである。繊細に編み込まれた木の空間は、せせらぎの音や冷気をそのまま肌で感じさせ、人が川の上を歩き、佇むための開放的な場をつくり出す。
都市と川のあいだにこの空間を差し込むことで、人間が水とがひとつになって過ごすための体験を提案する。

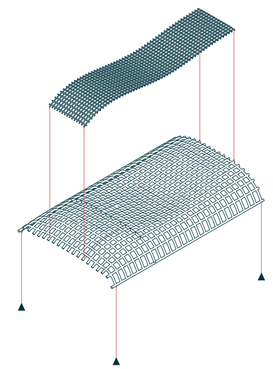
03 生態系を包み込む足下



有機的で微細な凹凸を持つ木材表面は藻類や微生物が定着しやすく、それを食す水生昆虫や小魚が集まる天然の「餌場」となる

04 2層構造による多様な居場所

ピッチの異なる格子を重ねることで人のためだけでなく、生き物のための空間になる



上部格子

京都府産ヒノキ 曲げ木LVL　ϕ=30
格子ピッチ　150mm
人が安全に歩き、佇むための繊細な床面。足抜けを防ぐとともに直射日光を緩やかに遮り、水面の冷気を捕集する快適な憩いの場をつくる。

下部格子

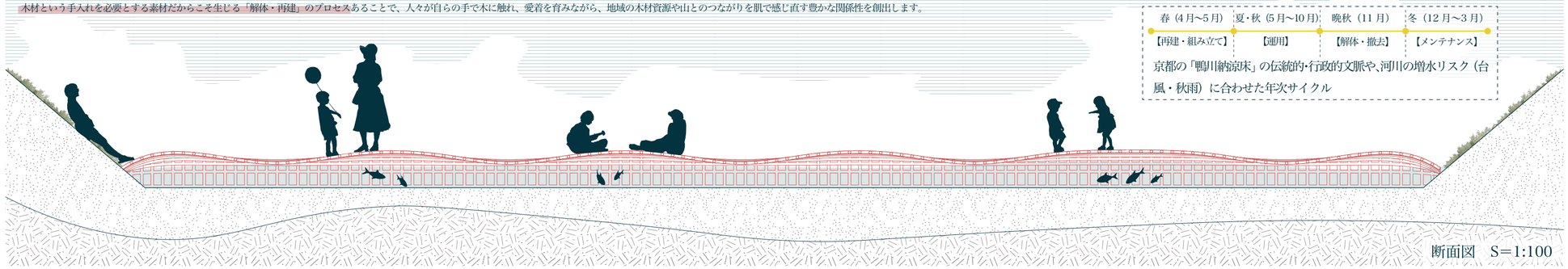
京都府産ヒノキ 曲げ木LVL　ϕ=80
格子ピッチ　300mm
格子間隔を広く取ることで、増水時の水流抵抗を逃がして構造の安全性を高めると同時に、多様な大きさの魚や水生生物が自由に通り抜け・身を隠せる住処となる

河床固定部分

コンクリートウェイト(400×400×300mm)
水流による引抜き・浮力・転倒に対して自重で抵抗する

05 水の上に佇み、解体・再建の営みで木に触れる

木材という手入れを必要とする素材だからこそ生じる「解体・再建」のプロセスあることで、人々が自らの手で木に触れ、愛着を育みながら、地域の木材資源や山とのつながりを肌で感じ直す豊かな関係性を創出します。



断面図　S=1:100